

# おお大勝利

平成 22 年度山東サッカー部報第 14 号 (8 月 7 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

## 松永 敗戦にも最後の意地の一発

先日 7 月 31 日 (土) 天童第 2 にて、Y 1 第 9 節が行われました。山東の対戦相手は、天皇杯予選にて山形大学に惜敗したものの 2 種 (高校生世代) の力強さを十二分に見せつけた東海大山形。東海は前節、山形城北と対戦し引き分けに終わったものの、一度目の城北戦<sup>1</sup>とは見違えるほど厳しい守備を見せ、成長の跡がうかがえました。相当厳しい戦いになると心して試合に臨みました。対して山東は 3 年松永の最終戦。「IH に出場するつもり = 8 月頭までサッカーを続けるつもりだったので、県予選で負けはしましたが、区切りのよい 7 月末までは現役続行します」との力強い決意の下、これまで練習・公式戦にて 1・2 年生を自らのプレーや声掛けにてけん引してきたマツ。そんなマツの心意気に、良い試合で応えたい。

試合は序盤から東海ペース。東海は中央突破だったり、アウトサイドを使ったり、攻めが多彩。それを支えるのがルーズボールへの厳しい寄せ。マイボールにする (ボールを自分のチームのものにする) 回数が多くなければ、いくら攻めが多彩でもダメで、東海は攻めの華麗さもさることながら球際への厳しさも併せ持っている。特にトップ下の選手がボールを奪われることなく敵の嫌がるプレー (ということは素晴らしいプレー) をすることができ、山東としては厄介この上ない。中央で起点を作り、右サイド (山東からすれば左サイド) に展開する形で、チャンスを何度か作り出している。対する山東は、人数が足りていても集団でボールを奪取することができず、後手を踏み続けている。人数が足りている場合は、守備の「先陣」が、負けても良いから勝負を挑み、立て続けに「後陣」がそのすきをついて勝負を挑む数的優位を活かした守り<sup>2</sup>をすることが必要ですが、それぞれがばらばらに勝負させられているまさに時代劇の悪役のような山東の守備。攻撃では、山東は単発でゴールに迫るだけ。分厚いものにはなっていない。とはいえ徐々に山東のボランチが存在感を見せ始め、面白い展開になり始めた前半の中盤、FK からニアサイドでフリーになった選手に頭で合わせられ、失点。そして続けざまに、圧力をかけられ、山東サイドのピッチで試合が進む悪い流れに。スローインを奪われ、ドリブルで右から中に (山東からすれば左から中に) 切り込まれ、左サイドハーフにスルーパス、左サイドハーフによるワンタッチのグラウンダーの折り返しを FW がワンタッチで合わせるといふ、流れるような攻撃を許し、2 失点目。敵ながら天晴れの攻撃でしたが、失点から立て直すことができないまま早すぎる追加点を許す稚拙

<sup>1</sup> Y リーグは 2 回総当たりで行われています。ちなみに 1 回目の対戦では城北の勝利。

<sup>2</sup> それを、サッカー用語でチャレンジ (1st defender) & カバー (2nd defender) と呼びます。ディフェンスで、1 対 1 に強くならなければならないのは当然ですが、敵の攻撃力が個々の守備力を上回る場合、複数人で協力して守る必要があります。その際は、チャレンジ & カバーの原則が重要と言われます。

な試合運びは否めず。この早すぎる追加点がやはり痛かった。前半を0 - 2で折り返す。

後半は敵のフォーメーションに合わせ、左サイドハーフを左ウイングに、左サイドバックを左サイドハーフまで上げる変形3 - 4 - 3のシステムで、なりふり構わず点を取りに行く山東。試合は時間を追うごとに山東ペース。東海は、攻撃しないわけではありませんが、安全運転の試合運び。勝ち点3が欲しいのはどのチームも同じ。「まず一点、特にマツの一点であれば尚更良いのだが・・・」などという勝手な希望は普通通らないのですが、やはりマツは「持っている」のでしょうか？右サイドを駆け上がったヤマトことマツの弟の上げたグラウンダーのセンターリングを、マツが泥臭く押し込み、スコア1 - 2に。よしよし、この勢いで同点だ～、とばかりにその後も攻め続けましたが、あと一点は遠く、結局1 - 2で敗戦。マツの最終戦を勝利で飾ることはできませんでした。しかしマツ自身は、自分の最終戦を得点で飾ったと思います。

これにてマツの山東サッカー部生活は終了。2008年11月にモンテユースから移籍し、遅れて山東サッカー部に入りましたが、みんなより長く現役生活を続けました。プレーもさることながら、準備や練習などにおいて見せるストイックな姿においても後輩に良い影響を与えたと思います。お疲れ、マツ！！

さて、今季のY1ですが、今節で東海に抜かれ、4位転落。しかも、5位、6位との差は僅差です（詳しくは山形県サッカー協会HPの「速報掲示板」にて閲覧ください）。負けられない戦いが続きます。山東にとっての次節は、8月21日（土）鶴岡工業戦 12:00@天童第2です。応援よろしくお願いいたします。

## ひたちなか遠征終了 多くの課題を得る

8月2日～5日の日程で茨城県ひたちなか市にて開催されたサッカーフェスティバルに参加してきました。天然芝がまさに「ずらっ」と並ぶ素晴らしい環境の下、近くのビーチに脇目も振らず、サッカーに打ち込んできました。山東は選手が25名しか参加しない<sup>3</sup>ながら、A・B2チーム登録、しかも2名が怪我で、交代選手が全くいない厳しい状況。正直1チームのドタキャンも考えました。ただ大きな怪我がなかったと言えることですが、全員がしっかり試合経験を積むことができ、却って収穫は大きかったです。

Aチームは不安定な戦いながら予選を勝ち進み、決勝リーグに駒を進めました。決勝リーグでは実力不足を露呈し、2分け1敗に終わりましたが、判断力・基本技術に大切さを改めて思い知らされました。Bチームは4日で2勝しか上げられず、しかもその2勝はいずれも県内チームのBで、県外チームには全敗でした。が、試合の雰囲気をよくしようと、声を掛け合うことを誓いながら試合に臨み、最終的にはAなんかよりもよほど一体感のある試合を展開しました。なかでも、これまで何と！親に「お腹空いた」と言ったことがないという虚弱体質のジュリこと稜生は、顧問の「おかわり攻撃（おかわりせよという命令）」に吐きながら耐えた成果が、野球で言うセンターフライ（セカンドフライか）のような山なりの軌道でバーをかすめながら急角度でゴールインする技あり？のシュート、名付けておかわりシュートを決め、ベンチを沸かせました。

力不足は百も承知。この夏を通して、全員一回り大きな選手になってほしいものです。

<sup>3</sup> 2年棚井は審判の予定があり不参加、同じく2年カルロスこと大三は半月板の手術・入院のため不参加。